



建築デザイン研究室

Architectural Design Lab.

福原 和則

FUKUHARA, Kazunori / Professor

空間に実る未来の果実 みかんの未来を担うアグリツーリズムセンター

The Fruit of the Future that Grows in Space: An Agritourism Center that Supports the Future of “MIKAN”

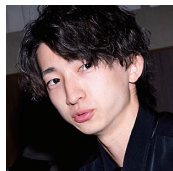
和歌山県有田市は、果樹面積や生産量全国一位の蜜柑産地である。しかし、近年、蜜柑の消費量の低下や、後継者不足など地方都市ならではの課題を抱えている。

そこで私はここに、地域活性化を図る観光のコンテンツとして、アグリツーリズムセンターを提案する。ワークショップ、収穫体験、アロマ足湯など、五感を使いながら体験することで、余暇を楽しみながら、蜜柑についての理解を助ける。

本来、蜜柑の運搬目的で利用される農業用モノレールを、ローカルな移動手段として活用し、みかん畑と館内を縫うように繋ぐことで、特徴的な体験経路を計画した。視界を遮る壁を極力無くし、廊下空間を半屋外とすることで開放感を与え、蜜柑の香りが建物全体を覆い尽くす。

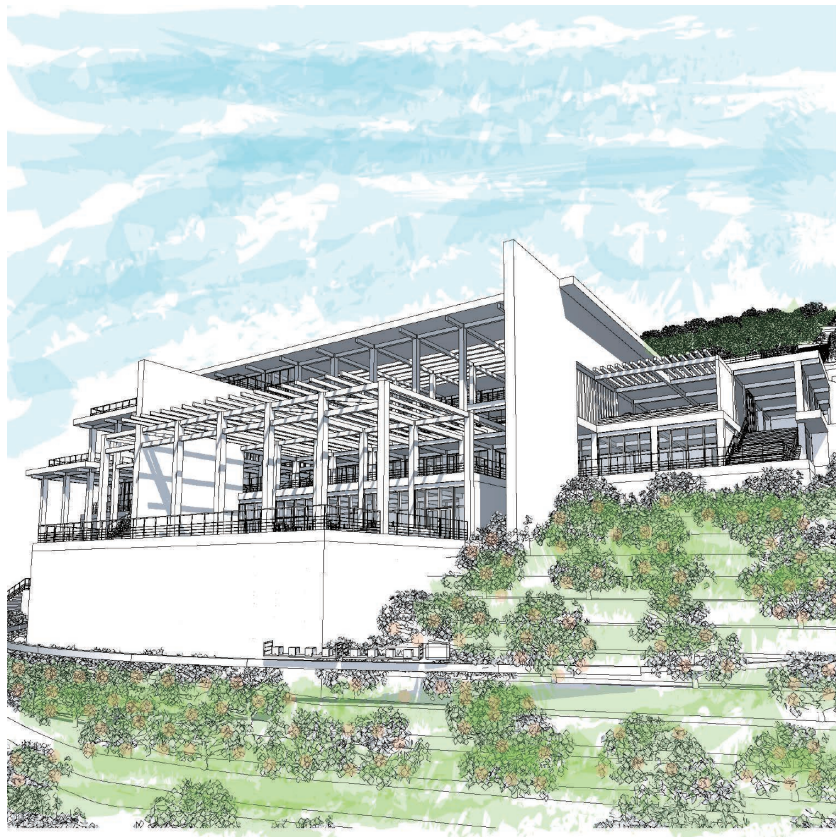
眺望、蜜柑の芳香、空間体験といった、運動的な体験に加えて、視覚、嗅覚に加えて聴覚、味覚、触覚にも刺激を与えていく。

この場所に実る感情や記憶は、未来のみかんを作り上げる果実となるだろう。



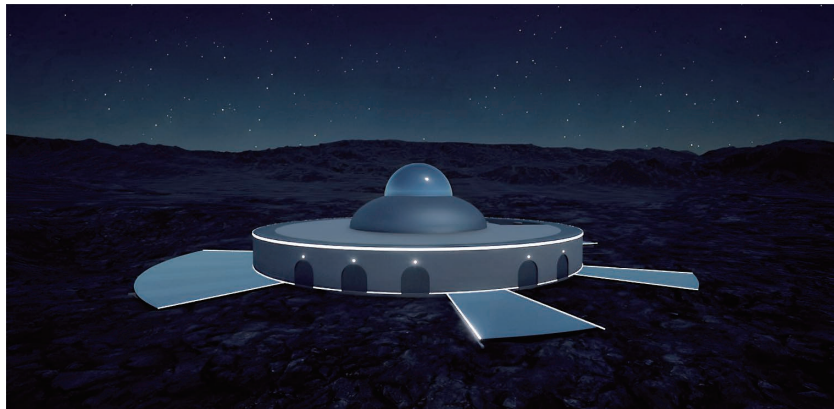
川村 藍斗

KAWAMURA, Aito



Apollon Polar Medical Center 月面下医療施設

Apollon Polar Medical Center: Sublunar Medical Center



人類は地球の外へ浪漫を抱き、人間活動の幅を広げるために宇宙へ、まずは月へと向かおうとしている。世界中の企業が住居やスペースポートを設計する中、生活基盤として極めて重要な医療施設の提案は未だみない。

私は月に住む人や、月を経由する人のための医療施設を提案する。

敷地は月の南極にあたるイトケン盆地シャクルトンクレーターの外縁南側である。

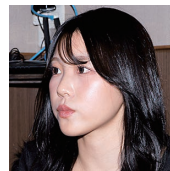
高濃度の宇宙放射線、昼夜の温度差、レゴリスや隕石による物理的損傷、0気圧、1/6G等といった月特有の環境を考慮し設計することを軸とした。

この施設のほとんどは地下に埋まっており、建物内部は1気圧、その外周に0.5気圧の干渉帯を設け、その環境を活かした新しい医療を展開する。ガラスのドーム屋根から取り込んだ太陽光は、すり鉢状の吹き抜けを通して光ダクトとなり、柔らかな雰囲気を作り出す。

ここは治療をするだけでなく、癒しを与え、また今後の医療の発展の場となり、人々の希望となる。

小林 美英

KOBAYASHI, Mio



鹿と共感する出会いの駅 触れ合いが未来へ繋ぐ

A Station where You can Empathize with Deer: Touching Connects to the Future

奈良公園内は、世界に誇れる歴史的な環境を継承している。

近年、「自動車渋滞に伴う事故の増加」「鹿と共生するための意識」が人々に浸透していないことが、オーパーツリズムとともに課題となっている。建築単体ではなく、都市計画レベルの検証が必要だ。近鉄奈良線を延伸させ、観光と信仰の軸である春日大社の前庭に結節点を構築する。

鹿の居場所を取り込んだ体験空間を併設することで、課題解決を模索する。多くの要素と人々の動線が交錯する複雑な条件を、建築空間の構成と空間の断面計画で克服した。

単なる交流地点ではなく語らいを通じて訪問者の意識を変えるきっかけとなる場所を目指す。



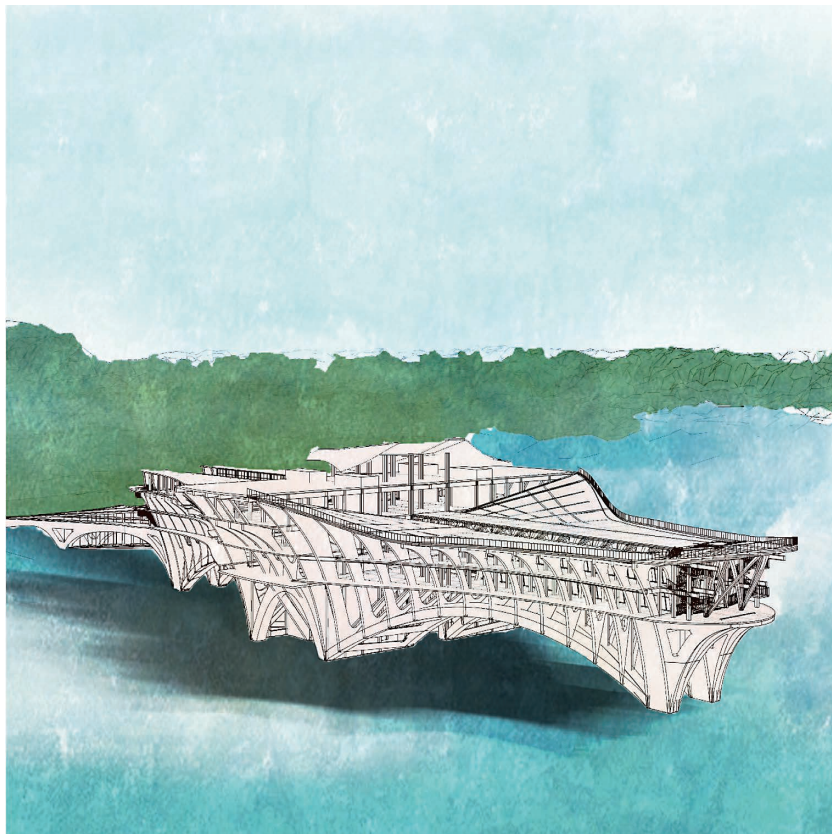
阪野 弘登

SAKANO, Hiroto



明日への大地 能登半島復興を描く地域再生拠点の創世

Gaia for Future: Creation of a Regional Revitalization Base for Reconstruction of the Noto Peninsula



2024年1月1日、石川県北部で発生した能登半島地震。壊れた大地に倒壊した家屋、私がかつて訪れた祖母のまちは壊され流された。大地震によって私たちはただ、大切なものを奪われるだけなのか。大好きなまちの人々と大切なものを守り、この先もずっと人々の故郷であり続けるために、地域再生拠点を珠洲市飯田港の上空に提案する。

人工地盤による空中拠点海上に計画する。建築は病院、銭湯、空中ポートや公営住宅などから構成される。日常時は復興する旧市街の支援拠点に、いざという時には、避難基地となる建築を構造する。

まちに残った祭礼の巡行ルートに再生拠点を追加する。引き込まれた祝祭の熱気は、新たに設けるお祭り広場で受け止める。

円弧を描く美しい海岸線に開かれた構造体は、海面からの柔らかな光を包み込み、人々にとって失われた町を想い、未来（明日）を描く場所となる。

審査会賞
(建築部門 第3位)

芝崎 遼太

SHIBASAKI, Ryota



私「から」あなた「まで」 ～関わり合う距離感のアーカイブ～

“From” Me “to” You: Archive of Connected Distances

人の距離とは、関係性を表していると思います。仲がいい人と話す時には、近い距離になり、遠くなるにつれて、関係が薄れていきます。一方で建築は、関わり合う距離を視覚的に表現できます。建築がそんな関わり合う距離感を少し調整してあげることで、まちに暖かい温もりを持った風景が彩られていくのではないのでしょうか。

敷地は千里ニュータウンの計画外となった上新田という地域です。上新田における昔の民家は、関わり合う距離感を建物で作っていたのに対して、その建物は宅地開発によって減少していきながらも面影を残しながら、時代変化に合わせて、さまざまなもので距離感を作っていました。それらを「からまで」ということにします。

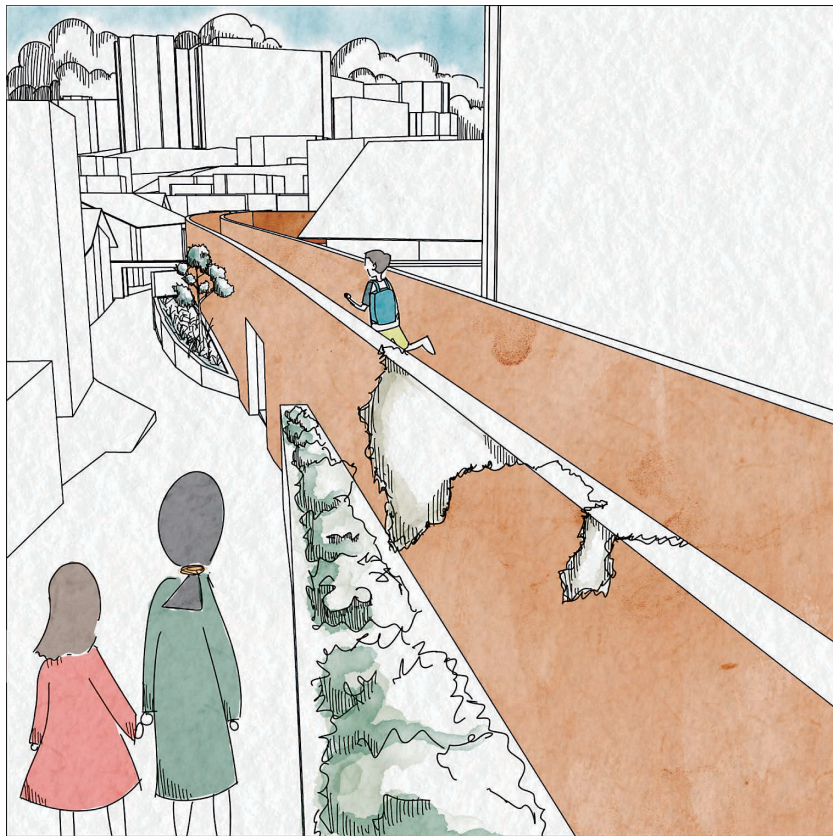
それらを補強しながら、集落の整備を行い、様々な建築群がまちのコミュニティを作り、それらが今後まちにコミュニティを生む距離感として残り、まち全体の風景の骨格として、彩りをもたらすだろう。



建築部門賞

谷 郁人

TANI, Ayato



軒下の居場所 都会の自然を共有する集合住宅

A Place Under the Eaves: A Residential Area for Sharing Urban Nature



船場地区唯一の公園である久宝公園に隣接し、かつて商店街だった井池ストリートに沿う敷地に、集合住宅を提案する。大阪市、その中でも船場地区は公園が極端に不足している。また、かつて店が商店街通りに広がり、内と外が曖昧に繋がる空間が生まれ、人々が自然と集まり交流する場となっていた人情あふれたこの町においても、現代の集合住宅では、隣人の顔を知らず、挨拶すら交わさない生活が広がっている。

軒下空間に着目して、かつての商店街が持っていた内外境界を曖昧にする特徴を取り込みながら、住民同士が自然と繋がる空間を設計した。住民が集えるセミパブリックな庭を住宅群の中心に配置し、その空間を軸に路地で結び、小さな広場のようなコミュニティを形成する。この設計により、生活の一部がおもてに現れる空間を作り、都市に自然と人々のつながりを取り戻す空間を提案する。

箱崎 妃咲

HAKOZAKI, Kisaki



地車彫刻を後世に継ぐ

Passing down Danjiri Carving to Future Generations

岸和田だんじり祭は、重さ4tものだんじりを曳き、町を勢いよく走る迫力が知られている。一方で、だんじり本体に施された繊細かつ豪快な彫り物の魅力を知る人は多くない。300年続くだんじり祭であるが、近年、人手不足や高齢化により衰退傾向にあり、だんじり彫刻師達の仕事も減り継承の危機にある。私は、だんじり祭と彫刻の魅力を広く紹介し、後世に受け継ぐためのこの建物を設計する。

だんじり彫刻の土呂幕は四枚の彫刻された板を重ねることで彫り物に空間としての背景の奥行きを作り出す。その造形手法を建築の構成手法に取り入れ、建築の要素として、奥行きを重ね合わせたような空間を作り出す。今いる空間からまた別の空間への繋がりを認識させる。人々がだんじりで感じる造形体験を、空間体験として、この建築で体感することで、あなたはだんじりから逃れられなくなるのである。



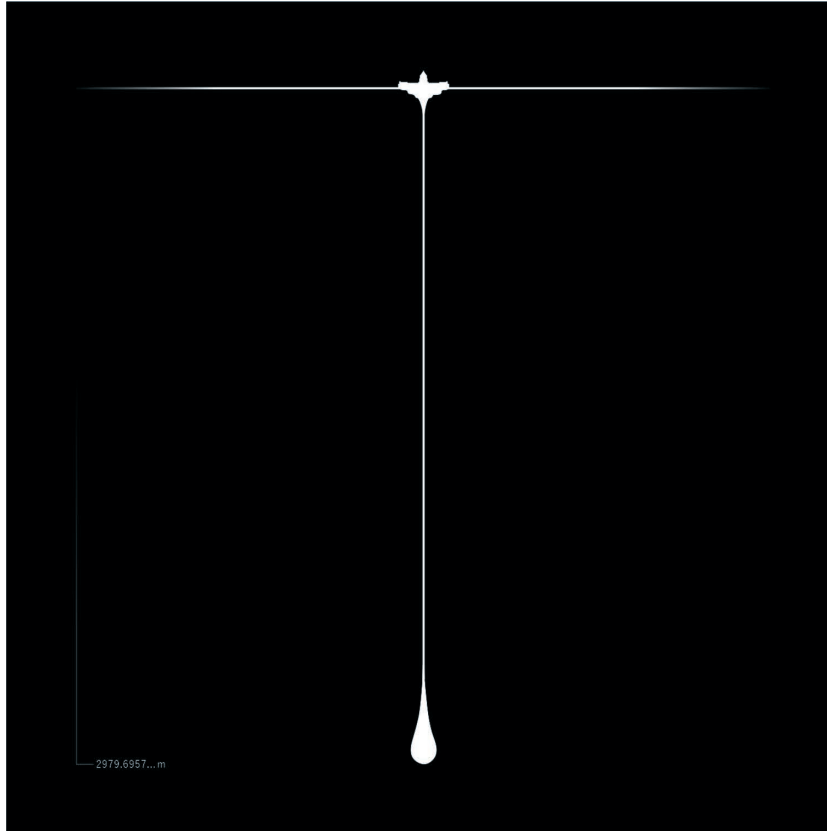
日根 颯祐

HINE, Sosuke



2979.6956... 地球の危機に備えたアーカイブの提案

2979.6956...: Proposal for an Archive for the Earth's Crises



この世界に何かを残したい。その手段として私は建築を学んでいる。いつ何が起こるか分からない今の時代、未来へ繋ぐアーカイブの意義が問われている。もし、はるか遠い未来に、巨大隕石が地球に衝突し、私たちの知る世界が無くなるとしたら、今のアーカイブに意味はあるのだろうか。

私は人類の知の遺産を後世に託すため、日本の中枢である国会議事堂の地下2979.6956...mに空間を構想した。編纂された現在および未来の知見を保存し、文明のエッセンスが地下の空間へと転送される。データは永久的に保存され、遠い未来のための眠りにつく。

隕石が衝突した今、この空間は人類再生の鍵を握るものへと姿を変えた。地下の特性を活かし、生命の源である「水」を生成する装置が動き出す。それは、かつての地球人が再びこの星に息吹を吹き込むための、最初の一滴となる。

命の灯火が芽生え、地球に新たな文明が育つ。

審査会賞
(建築部門 第1位)
特別審査員賞(石井良平賞)

平井 悠策

HIRAI, Yusaku



さくらさく 戦争の跡地に咲く、未来を紡ぐ保育施設

Cherry Blossoms Bloom: A Nursery School that Weaves the future, Blooming on a War-torn Site

1945年8月14日大空襲により被害を受けた大阪工
廠化学分析場。周辺にはかつての面影はなく、時ととも
にその記憶すら消えようとしている。しかしこの場所には
“川”と“並木道”が風景として残り続けている。川に囲
まれたこの場所は毎年満開の桜が咲き誇る。この姿は
戦時中、現在、そして未来まで続いていくだろう。

戦争跡地であるこの建築を再利用し、戦争展示施設
と保育施設を設計する。既存建物そのままに、風景
を紡ぐ曲線と新たに組み込む。外部に向けた展示空間
は元の素材を利用し、過去の姿が時代を繋いでいく。
保育空間は新たな曲線を活かし、開放感と自由さを持
つ空間を展開する。過去の記憶と未来に向かうベクト
ルが混ざり合うことで過去を偲ぶと同時に未来に記憶
を繋ぐ前向きな場所となる。

この地で子供たちという花が咲き成長していく。暗い
記憶でとどまっていた場が未来ある場となり、新たな記
憶とともにこの場所を紡ぐ。



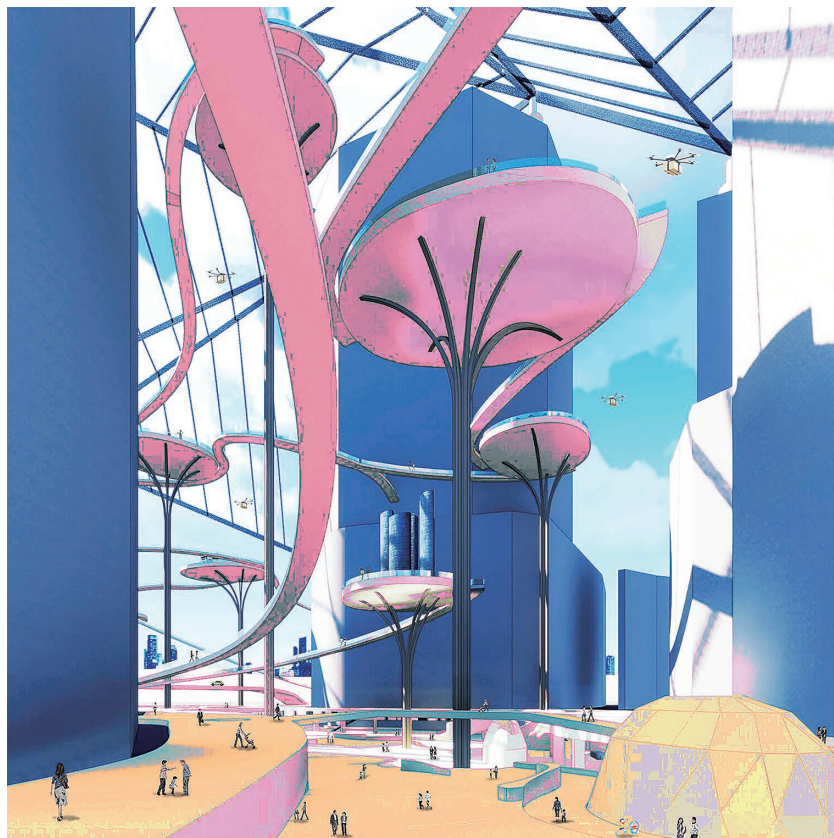
藤 望未

FUJI, Nozomi



都市の巢 時代の変化に伴う、大阪梅田の未来図

Urban Nest: A Vision of the Future of Osaka Umeda Amidst Changing Times



近現代、日本の都市は車中心の開発が行われてきた。しかし人口減少と技術革新が進み、新たな都市のあり方が模索されている。

今、大阪駅、³側の車道空間を人のための広場へと変える未来図を描く。

御堂筋の最北端であるこの場所は、車道が人の動線が分断しているため、人々は迷宮化された地下街を経由して移動する。将来の御堂筋完全歩行空間化を見据え、交差点を広場化し、この場でしかあり得ない新しい垂直型都市公園を提案する。

車道であった部分を大きく掘り下げ、階段やスロープで地上と地下を一体化する。上空には“そらにわ”が浮かび、都市の新しい機能が追加される。周囲の高層ビルに架けられた大きな屋根が雨や日射から人々の活動を柔らかく守っていく。

これらにより高層ビルと地下にしか行き場をなくした人々を繋ぎ、人間の生命活動により築き上げられた都市の巢のような広場が未来の都市生活の礎を築く場となり、大阪梅田に新しい活気を生み出すだろう。



水本 朱音

MIZUMOTO, Akane

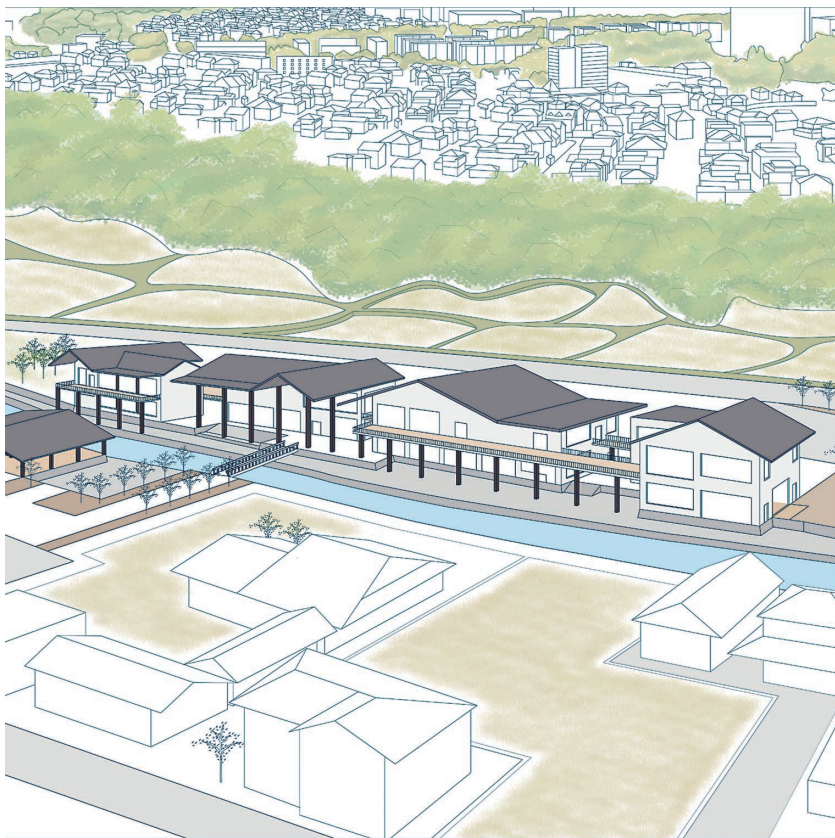
棚田の郷の農拠点 水際に誘われて

Agricultural Base of Rice Terrace Village: Invited to the Waterside

かつて、農とは生業の中心であるとともに、社会を繋ぐ存在であったと言えるだろう。現在、地域とのかかわりが希薄となり、地域における生産と消費の循環が失われた状況だ。かつての農の役割に注目し、農を中心にした交流拠点を構想した。

計画敷地には、住宅地と農地が混在し、棚田の風景が広がる。ここに地域の人々が日常的に農に触れる農業の拠点を設計する。農作物を紹介する販売所、地域野菜を用いたレストラン、アートや園芸とつなぐワークショップが配置される。敷地は妙見川を挟む二つとし、主要な建物は西側に設ける。東側は対岸までのアプローチ空間とした。西側の建物は活動ごとの分棟配置としながらも、庇が伸びた半屋外空間で繋ぎ、内部の床の仕上げがはみ出て、内での活動が外に染み出て、水際に人々は誘われ、互いの活動が緩やかにつながる。

ここに訪れることで、農に関わる学習、体験が行われることが地域の人々の日常となることを目指した。

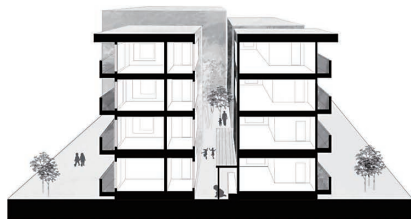
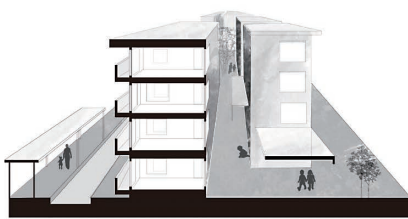
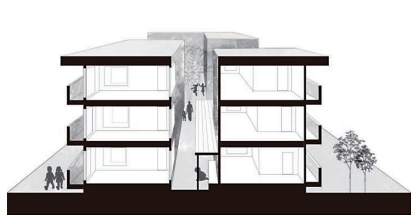
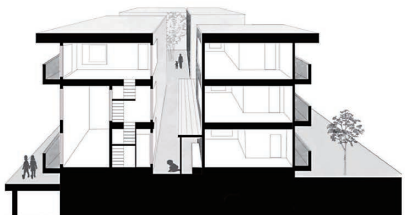


三井 隆之介

MITSUI, Ryunosuke

スーパースターを唄って 小津安二郎の映画手法を使った団地の再生

Singing "Superstar": Revitalization of Housing Complexes Using Yasujiro Ozu's Cinematic Techniques



現在、人口減少、老朽化により、一部の団地は解体が進んでいる。しかし、成熟した団地には緑が茂り、時を経て住まいとしての風格を備えたものも少なくない。そのようなストックとしての価値に注目して、既存躯体を活かした団地の改築を考案する。

映画が子供に与える好影響に注目して、非日常的な映画の手法を用い、人々の生活にフォーカスをあてた子供たちの価値観を広げる集合住宅を設計する。小津安二郎の家族について描かれる東京物語という映画に使われている手法を使う。

壁式構造の耐力壁で'通り'を作りビューポイントを作りカット繋ぎのように連続させる。日常生活のなかでローアングル。建物や隙間からみえる奥行き性のある美しい風景。団地四棟にこれらの手法を取り入れる。

映画的手法を用いた空間が子供たちの世界、価値観を広げ、親や先生、学校に縛られず人生という超大作映画のスーパースターになりたいと自由に唄えるように。

山崎 空斗

YAMASAKI, Sorato

